

ほかほかタイムズ

第2回目の「ほかほかタイム」は、学校評議員の永岡康夫様をお招きして、お話を伺いました。永岡様は森友にお住まいで、長年シクラメン栽培をされていらっしゃる方です。



シクラメンは、日本では自然に生えていません。地中海沿岸のシリアやイスラエルなどでは自生していますが、日本の気候には合わないで、ビニルハウスやガラスハウスで栽培しています。品種はたくさんあり、新しい品種も増えています。燃え上がる火のように見えるので、「カガリビバナ」という和名がついています。42～3年前に「シクラメンのかほり」という曲がはやった時は、その歌詞にある真っ白のシクラメンに人気がありましたが、今は赤やピンクなどいろいろな色を栽培しています。日光は、夏の気温が25度以上になる熱帯夜がないので、シクラメンの栽培に適していて、全国でも有名な産地です。シクラメンは、種をまいてから出荷するまで、1年かかります。また作った花は、日本全国に出荷しています。できるだけ、お客さんに喜んでもらえるようなよいシクラメンを育てようと頑張っています。

なぜ、自分がシクラメンの栽培を始めたかということ、6年生のときの夢が、「農業をやりたい。」ということだったからです。そして、農業高校に入り、シクラメンの栽培が今市の気候に合っていると知り、今に至っています。自分は今、仕事として好きなことをやれています。皆さんは、夢や希望がいっぱいあると思います。これから成長するにつれて、やりたいことが変わるかもしれないし、今の夢を成し遂げる人もいるかもしれません。どちらにしても、たった1回の人生なので、自分のやりたいことを本気でやってほしいと思います。

皆さん、「偉い人」とか「すごい人」というのは、どういう人だと思いますか。まず、「有名になる」ということもありますね。「お金を儲ける」ということもあるでしょうか。でも、一番大事なのは、「人を育てる」ということだと思います。友達を作って、仲良くすること、それが一番大事なことです。また、皆さんの周りにいる先生方は、皆さんが健やかに育つように、精一杯努力をされて、立派な仕事をされていますね。どんな仕事でも、人に喜ばれるようにすることが大切です。私は、シクラメンを作って、お客さんに「長持ちしたよ。」とか「いい花ですね。」と喜んでもらいたいという思いを、今でも持ち続けています。皆さんも、夢をもち、目標に向かって頑張ってください。

また、これから一番大切なのは、挨拶をすることです。自分も内気だったので、挨拶をするのが苦手でした。でも、大きい声で挨拶をすると、自然に輪が広がっていきます。これからも、挨拶することを大切にして、未来に向かって頑張っていきましょう。

永岡様の、シクラメン栽培に対する熱い思いや、夢や目標に向かう心構えを聞いて、子どもたちも、自分の目標に対する思いを新たにすることができたようです。

子どもたちの感想は、裏面に載せてありますので、御覧ください。

次回ほかほかタイム

9月20日(水) 1:15～

講師：本校卒業生

高橋 優果様

体育館玄関からお入りください。

スリッパを御持参下さい。

保護者の皆様から、御意見・御感想がありましたら、お寄せください。

担当：大森

氏名 () 児童名 (年 組)

次号の道徳だよりに、匿名で御意見・御感想を掲載させていただきたいと思いますので、御了承ください。

個人情報保護
のため、省略

前回のほかほかタイムについてたくさん御感想をいただきました。その一部を御紹介します。

「友達の力」ってすごいです。とても素敵なお話だと思いました。1人1秒なら、できそうな気がしますもの。子どもたちには、相手を思いやる優しい気持ちをもっている子になってほしいと思います。はばたきの皆さんに挨拶ができるようになった子どもたちも、とてもえらいと思います。まずは親として、子どもの見本になれるよう、優しい気持ちを持ちたいと思います。

1人1秒のプレゼント、涙が出そうでした。障がいのある人を通して、子どもたちが優しく協力しあえる子になるのだと感動しました。私の家族にも、障がいをもっている人がいます。なかなか優しくなれずに反省したりしています。はばたきさんには、学童で子どもがお世話になっていて、こういう場所だったのかと初めて知りました。竹でご飯を炊いたり、流しそうめんをしたり、毎回「本当に楽しくておいしかった!!」と言っています。今度家族でも行ってみようと思いました。